

第7回 登別市中小企業地域経済振興協議会 議事録

平成26年8月28日(木) 18時00分～

登別商工会議所 会議室

- ◆出席委員：高田 明人 委員  
齋藤 正史 委員  
川田 弘教 委員  
鈴木 高士 委員  
守屋 聡 委員  
近井 一夫 委員  
吉元 美穂 委員  
安達 陽子 委員  
千葉 洋子 委員  
沼田 一夫 委員  
二瓶 秀幸 委員  
松山 哲男 委員  
井上 昭人 委員  
苫米地 真一 委員  
計14名

- ◆事務局：商工労政グループ伊東商工労政・新エネルギー主幹  
奥田主査  
竹中担当員

- ◆登別商工会議所事務局：田村事務局長

- ◆議題：1. わがまちの「工業の現状」を聞いて  
2. わがまちの「工業」が抱える問題・課題  
3. わがまちの「工業」の今後のあり方

【要旨】

項目	発言者	内容
<p>～工業の現状について～</p>	<p>会 長 事 務 局</p>	<p>本日はわが町の工業について話していく。</p> <p>一般的に工業と聞いて脳裏に浮かぶのは、新日鉄住金や日本製鋼所のような鉄鋼業であろうかと思うが、登別市には工業と聞いてぱっと浮かぶものが特に無いように思われる。</p> <p>そもそも工業とは、農業・水産業・林業・鉱業などで生産されたものを原材料として加工し、有用な製品を生産する事業である。また、農林水産業や鉱業が主として自然を利用して生産物を育成したり、自然界に存在するものを取り出して生産物を生み出すものであるのに対し、工業は他の工業で生産された製品を更に加工して新しい製品を生産する事業でもある為、『製造工業』あるいは『製造業』と呼ばれている。</p> <p>登別にある製造業を紹介していくと、食品製造業、窯業・土石製品製造業、金属製品製造業、繊維工業、木材・木製品製造業、印刷関連業、化学工業、石油製品・石炭製品製造業、プラスチック製品製造業、鉄鋼業、はん用機器・器具製造業、生産用機械器具製造業、輸送用機器・器具製造業、その他の製造業と、多岐に渡る。</p> <p>統計を見ていくと、平成24年は市内に44社の製造業があり、内訳は食品製造業が15社、金属製品製造業が8社、窯業・土石製品製造業が8社で、この3つの業種が全体の7割を占めている。</p> <p>従業員数は食料品製造業が318人で、このうち100名が正社員、残り218名がパートである。特に水産加工業では、パートタイムの雇用による労働力の確保に頼っているところが大きい。</p> <p>ここ10年の事業所数・従業員数の推移は、ともに少しずつ減少している傾向が見られる。しかし、市内全体の製造品出荷額を事業所数で割った1社あたりの数値と、市内全体の製造品出荷額を</p>

従業員数で割った1人あたりの数値は伸びている。これは登別の企業の技術力の向上と生産者の努力によって出た数字であると思われる。以上です。

会 長  
委 員

では、工業関係者から話をさせていただく。

私は登別商工会議所の工業部会に所属しているのだが、工業という分野は各種に及んでいる。

登別市のような小さな地域では、生活に密着した企業が多いように思われる。

興和工業の現在の従業員は27名。最盛期に比べると半減に近い状態である。売上についても同じである。現在課題となっているのが、円高の影響で材料費が上がっていることや、原油価格の高騰によるプラスチックに使われる原料の値上がり、電気料金の値上がりがどんどんコストアップにつながっていることである。

一方、近年プラスチック製品が海外から安価で輸入されてくるということがあったが、国内の需要が減っていることもあり、輸送コストが上がって輸入が減少したように思われる。

近年では、技術系社員をなかなか採用できていないというところが課題となっている。中小企業は即戦力を求める為、人を育てるといったところが苦手なように感じられる。そんな中でも、室蘭テクノセンターからの補助により、様々な取り組みを実施し、伸び悩んでいる部分を補っている。以上です。

会 長  
委 員

では、二人の方からの話を聞いた中での疑問等はないだろうか。

室蘭テクノセンターでは工業系の会社への支援などを行っているが、食品メーカーに対する支援も行っているのだろうか。

事 務 局

室蘭テクノセンターでは、『ものづくり創出支援事業』という制度を設けている。この事業では、登別・室蘭・伊達の三市が合同で補助金を交付し、新製品開発をする事業者に対する支援行ってい

1. わがまちの「工業の現状」を聞いて
2. わがまちの「工業」が抱える問題・課題
3. わがまちの「工業」の今後のあり方

委員

て、食品メーカーも対象に含まれている。

私が勤めている日本製鋼所では、鉄ばかりだと勘違いされるが、今2種類のFRP製品を作っている。ひとつは風力発電の風車の羽、もうひとつは自衛隊に納めている大砲などを作っている。

水素自動車などの水素タンクは、鉄で作っているが、鉄というのは水素に非常に弱い。鉄のマイナス部分をFRPに置き換えようという動きが始まっており、水素を利用する場合は鉄ではなくFRPを使用しようという動きが見られるようになった。興和工業では、新規開拓などで今後について考えている方向性はあるのだろうか。

委員

現在我が社では、日本製鋼所の製品の補修などを行っているほか、水素自動車に対応するFRP素材の検討も行っている。

自動車においては、今後ボディもFRPに置き換えられるのではないかと考えている。

会長

では、先の説明を聞き、問題・課題・今後のあり方等についてグループに分かれて話し合っただけ、グループごとに発表していただく。

副会長

Aグループでは、興和工業はどのような製品を作っている会社なのか想像もつかなかった。だが、今回初めて知ることができたという意見があった。

話し合った内容としては、室蘭市も含めた地域に3次加工メーカーが無く、地元の中小企業が恩恵を受ける機会が少ない。

人材の確保面では、地元室蘭工業大学があるが、就職で地元に残る生徒が少ないため難しい。また、特殊な技術なため人材を育成することも時間がかかる。これに関しては、定年を過ぎた労働者を再雇用という形で雇い、後輩を育成することに努めてもらうという話が出た。

工業関係の会社は相対的に見て、どのような商品を製造しているのかがわかりづらい傾向にある。市民が知りたい、あるいは企業が知ってもら

4. その他

委員

いたいと思っけていても、企業側はその設備に投資するのは容易ではない。市役所やその他の施設に、企業の取り組みがわかるようなものが必要ではないかという話が出た。食品工場はどんなものをどういうふうに作っているのかがわかると、消費者も購入しやすくなるだろう。以上です。

Bグループは、北海道曹達が製作している化粧品品の品質が高いが、現在販売しているのが登別市役所とホテル平安と登別商工会議所の3か所であるため、もっとアピールすべきだという話が出た。

生産者は加工まではせずに生産のみで終わってしまうという現状があるという話を耳にしたが、付加価値を付けていく加工の技術が高ければもっと経済が発展するのではないかという話になった。地域の人材育成センターのようなものが情報を発信していけばもっと発展していけると思った。以上です。

委員

Cグループでは、もっと加工業を発展させることはできないのかという話が出た。登別市でエゾシカ肉を加工しているのので、牛・豚とは違う新たなブランド品として製造していくような取り組みができるといい。統計を見ていくと、工業は雇用者数を多くできるという側面があるので、工業を発展させることがまちの発展につながるだろう。以上です。

会長

今後の進め方について、9月は商業と福祉の分野について、10月は観光産業について協議していく。その後、それぞれの分野の問題・課題を認識したということで、研究者を呼びたいと思っけている。11月は、これまで協議してきた内容をまとめたものを土台にして問題・課題を整理し、原因を把握した上で、12月中には市に現時点までの報告書を提出したいと思っけている。

次回は9月11日午後6時30分から開催する。

お疲れ様でした。

